

財団法人日中医学協会
2007年度共同研究等助成金－日本人研究者派遣－報告書

2007 年 8 月 15 日

財団法人 日 中 医 学 協 会 御中

貴財団より助成金を受領して行った訪中交流について報告いたします。

添付資料： 訪 中 報 告 書

受給者氏名： グレッグ美鈴

所属機関名： 神戸市看護大学

所 属 部 署： 看護部

職名： 教授

〒 651-2103

所 在 地： 神戸市西区学園西町3-4

電話： 078-794-8080

内線： 2212

1. 助 成 金 額： 220,000 円

2. テ ー マ

中国の継続看護教育に活用できる質的研究

3. 成 果 の 概 要 (100字程度)

中国の継続看護教育における質的研究活用の可能性を明らかにするために、2病院で看護管理者へのインタビューと「中国の継続看護教育に活用できる質的研究」のテーマで講演を行い、意見交換を実施した。これらの結果から、継続看護教育への質的研究の段階的導入の必要性が明らかになった。

4. 招 聘 機 関

機関名： ①広州市赤十字医院、②上海交通大学附属 代表者名： ①曹曉曉、②何夢姍 職名： ①副院長、②院長

所在地： ①広州市同福中路396号、②上海市宜山路600号

5. 滞在日程概要 (日付、主な旅程・行事等)

2007年7月12日 (木) 関西国際空港～広州 病院関係者と会食

7月13日 (金) 広州市赤十字病院 講演・意見交換、看護部長インタビュー

7月14日 (土) 広州市赤十字病院 副看護部長インタビュー、広州～上海

7月15日 (日) 上海交通大学附属第六人民医院、教育担当師長インタビュー

7月16日 (月) 上海交通大学附属第六人民医院、講演・意見交換、看護部長インタビュー
上海～広州

7月17日 (火) 広州～関西国際空港

中国の継続看護教育に活用できる質的研究

研究者氏名 グレグ美鈴

所属機関 神戸市看護大学 教授

要旨

中国の継続看護教育（特に病院における現任教育）の現状を把握し、その教育においてどのように質的研究が活用できるかを明らかにすることを目的とした。2病院での看護管理者へのインタビューと、「中国の継続看護教育に活用できる質的研究」の講演を現任教育の一環として実施し、講演への反応を把握しデータとした。その結果、中国の現任教育のシステム（継続教育活動の受講証明による単位制）は、日本より整備されているが、大学院の教育においても量的研究が中心に教えられており、病院の看護管理者（看護部長、副看護部長レベル）にとっても質的研究は未知な領域であることが明らかとなった。しかし都市の大病院では、これまでに質的研究の講演を継続教育として実施したこともあり、地域格差は大きい。現任教育レベルでの質的研究の実施には、更なる教育が必要であるが、看護研究全般についての関心は高く、質的研究を継続看護教育として実施する素地は育っていると考えられる。継続看護教育への質的研究の段階的導入の必要性が明らかとなった。

Key Words 継続看護教育, 現任教育, 質的研究, 臨床看護研究

緒言:

日本においては、人間の経験を理解し得る質的研究の重要性が看護の中で認識され始め、継続看護教育の中でも活発に活用されている。日本と中国は、看護協会が連携して、学術集会を開催するなどの協力関係にあり、中国の継続看護教育への質的研究の可能性をさぐることは、両国にとって、究極的には看護の質の向上につながると考えられる。本研究の目的は、中国の継続看護教育に、どのように質的研究が活用できるかを明らかにすることである。

対象と方法:

1. A病院の看護部長、副看護部長およびB病院の教育担当師長、病棟師長を対象に、継続看護教育の現状、および臨床における看護研究の現状についてインタビューを行った。
2. A・B病院における現任教育の場で、「中国の継続看護教育に活用できる質的研究」の講演を行い、参加者との意見交換を行った。
3. 上記1、2における発言内容を、継続看護教育の現状、臨床看護研究の現状、質的研究の現状に分けて分析した。

（A病院は病床数が約600床、B病院は約1,700床である。研修参加者は、A病院が約80名、B病院が約150名であった。）

結果:

1. 継続看護教育の現状

中国における看護学教育の課題は、人口の増加と高齢化に伴う社会のニーズに対応するために、看護師の数と質を確保することである。高等教育での看護学教育も増加傾向にあるが、全体の看護師数からみると、少数に過ぎない。そこで、基礎教育卒業後の継続看護教育が重要となる。中国では、1993年に制定された「中華人民共和国護士管理弁法」を基盤として、「護士管理施行規則」が定められ、免許制度、昇進制度と継続教育を組み合

わせて、看護師の能力向上のためのシステムを導入している。継続看護教育活動として、学会、講演会、講習、研修への参加、論文発表などの活動が単位として記載された個人カードが作られている。1年で最低25単位を取得することが要求される（A病院・副看護部長）。

この継続看護教育制度については、次のような意見もあった（B病院・病棟師長）。「単位取得を気かけながら学習しなければならない状況に対して、これで本当に看護実践能力を向上させられるのか、忙しい日常の仕事とのバランスをどのように取れば良いのか悩む。看護師不足の中、研修などで学ぶことに時間を使うよりも、もっとベッドサイドで患者ケアをする方が重要なのではないかと思うこともある。今の継続看護教育制度で良いのだろうか。」

2. 臨床看護研究の現状

中国で行われている臨床看護研究は、研究数そのものも多くはないが、それらのほぼ全てが量的研究である。また、これらの量的研究も複雑なデザインではなく、統計も単純集計などの記述統計を中心としたものが多い現状にある（B病院・看護部長）。

A病院の研修参加者で、臨床看護研究を実施したことのあるものは1名のみであった。一方、B病院では、10年くらい前から病院は看護師に研究をするように勧めており、複数の看護師が研究発表を行っている。しかしB病院においても、研究指導者を得ることが難しく、大学卒業の看護師は、個人的に大学教員に指導を求めている（B病院・教育担当師長）。

講演は、質的研究を用いた継続看護教育に関するものであったが、研修参加者からは、研究全般に関連する質問が出された。例えば、質問紙を用いた量的研究のための尺度開発に関する内容である。他の国の調査で使われた質問紙を翻訳して、自分の国で用いることは問題がないか、もし自分の国で使用する場合、どのようなことに注意をすべきかについて質問があった。

3. 質的研究の現状

両病院とも質的研究について、詳しく知っている人はいなかった。質的研究を用いた論文を読んだことがある人もいなかった。日本では、グラウンデッド・セオリー、現象学、エスノグラフィー、質的記述的研究などが看護の中でしばしば使われているが、これらの名前を聞いたことがある人も皆無であった。B病院では、過去に1度、質的研究の概要の講義を現任教育として実施したことがあるとのことであったが、具体的手法や研究ではなく、量的研究との違いなどに焦点が当てられていた（B病院・教育師長）。

香港の修士課程で学んでいるA病院の副看護部長は、研究方法として学んでいるのは全て量的研究であり、質的研究については学ばないと話していた。統計学を用いた仮説検証型の研究が主であり、疫学研究で使用する無作為割付臨床試験、コホート研究、症例対象研究などの研究デザインに基づく学習を、看護のみではなく保健・医療関係を専攻する学生と学んでいるとのことであった。

A病院では、質的研究の講演後、全く新しい知識を得え、質的研究の重要性が理解できたと述べられていた（A病院・看護部長）。講演では、「主観を排除し、どのように客観的分析をするのか」、「質的研究の基礎となる学問は何か」（A病院・研修参加者）、「どのような理論が活用できるか」、「質的研究の弱点をどう補うか」、「インタビューでデータ収集をする場合に、どのようにして真実を話しているとわかるのか」（B病院・研修参加者）などの基本的質問の他、「日常の看護の多くを、医学的知識の低いヘルパーに委ねて、看護師不足を補っている状態であり、質的研究を役立てる方法が知りたい」という質問も出された。

考察：

中国では、看護師登録の有効期間は2年であり、看護師として仕事を継続しようとする場合には、2年ごとの再登録が必要となる。この免許更新時には、継続看護教育活動の実績を記載した個人カードの提出が求められる。このような継続看護教育システムについては、日本より進んでいると考えられる。しかし、継続看護教育の内容

としては、講習や研修など受身の学習が多い。継続看護教育に積極的に臨床看護研究を導入する必要性は、中国看護協会も認め、日本看護協会との共催で、日中看護学会が継続して開催されている。

今回、インタビューや講演を実施した2病院では、臨床看護研究に対する取り組みに大きな違いがみられた。都市部にある大病院では、病院が看護研究を推進しており、日本の事情に近いが、問題も日本に類似している。つまり臨床看護研究を指導する人材の不足である。中国も日本も、看護管理者（病棟師長レベル）に、臨床看護研究を学んだ者、あるいは臨床看護研究を実施した経験がある者が少なく、スタッフに指導ができない状況がある。今回、インタビューを実施したA病院の副看護部長は、政府の資金援助により、副看護部長の籍を置いたままフルタイムの修士課程の学生として学んでいた。このような努力が今後、臨床看護研究の指導者を育成していくことになると考えられる。しかし郡部にある中規模病院では、看護部の関心は、看護師数の不足に向いており、臨床看護研究による実践の向上というよりも、まずベッドサイドでのケアをヘルパー任せにするのではなく、看護師によって必要なケアを実施したいという状況であった。

それぞれの病院の事情を考慮しながら、臨床看護研究そのものについて学ぶ機会を、継続看護教育として準備することが必要である。中国の看護研究の現状として、研究論文の構成要素に基づかない報告が多く、実践の中で何らかの効果を得ている実感を持っているにも関わらず、その効果が研究的に証明されていないものがほとんどであり、看護研究に関する教育の体系化が必要であると指摘されている。

看護師数の不足が最大の関心事である病院においても、臨床看護研究を実施することによる看護実践の向上は必要不可欠であり、継続看護教育として取り組むことが望まれる。この場合、単発的な講義ではなく、臨床看護研究の基礎から実際までが理解できるようなシリーズとしての教育計画が重要である。また臨床看護研究は、講義を受けただけで実施することは困難であり、指導者を育成する際も、実際に研究に取り組むことが必要である。そのためにも、大学との共同研究が望まれる。今回、訪問した2病院では、大学との共同で臨床看護研究はなされておらず、今後、そのルートの開発が必要であろう。

質的研究においては、臨床看護研究を行ったことがある看護師のいる病院においても、実施されていない状況であった。中国の看護職の免許を規定する「中華人民共和国護士管理方法」の法律に定められた看護師の具体的業務は、次のとおりである。「看護師は医師の指示を正確に施行し、患者の心身の状態を正確に把握し、患者に対して科学的な看護処置を行う。緊急の場合は速やかに医師に知らせ、ともに救急処置にあたる。医師が不在の場合は、看護師が正確に判断して救急処置を行う。」（第21条）

この法律にある看護師の業務のうち、「科学的な看護処置」の表現が、実証主義的パラダイムの考え方と一致し、臨床看護研究の多くが量的研究である状況を産んでいると考えられる。実際に日中看護学会での中国側の研究発表に、質的研究はみられないことが報告されている（2001年9月の第7回日中看護学会）。今回は2病院の関係者の聞き取りであったが、看護研究の中で質的研究が実施されていない状況は、現在も大きく変わっていないことが推測される。しかし、講演後に活発な意見交換が行われたことを考えると、質的研究への興味は高いと言える。量的研究においても指導者が得られにくい状況にあることを考えると、より指導者の役割が重要となる質的研究の実施は、スタッフレベルの継続看護教育の一環としては困難であることが予想される。まず師長レベルの看護管理者を対象とした実施が現実的であると考えられる。

継続看護教育における質的研究の重要性については、講演などの方法で理解が得られることは、今回の講演後の反応でも明らかである。したがって、継続看護教育において質的研究を行うことが重要であることを、より多くの看護師に理解してもらい、既に発表されている質的研究結果を臨床で活用することから開始する必要がある。

継続看護教育の中で、まず臨床看護研究についての教育を行うこと、次に質的研究の重要性の理解の上で、既存の研究結果を臨床で活用すること、同時に病棟師長レベルの看護管理者を対象として、質的研究を実施するための教育を実施し、次いで大学教員との共同研究によって、質的研究を実施するという段階的な導入が必要である。

参考文献

1. 平井さよ子：中国の看護免許制度と継続教育制度，看護管理，13(7)，578-582，2003.
2. 関谷由香里：中国の高等看護教育の現状と課題―第8回日中看護学会に参加して―，日本赤十字広島看護大学紀要，3，109-111，2003.
3. 淘江七海子，松村千鶴，堀美紀子：第9回日中看護学会事情と中華人民共和国における看護の現状，香川県立保健医療大学紀要，1，159 - 164，2004.
4. 原敦子，早崎幸子，奥村奈美子，小野幸子：中国の看護研究の現状―第7回日中看護学会論文集の分析を試みて―，岐阜県立看護大学紀要，2(1)，69 - 75，2002.
5. 李秀華，王秀卿，韓春燕他：看護の卒後継続教育における学分管理制の実施の現状，看護管理，7(5)，364-367，1997.

作成日：2007年8月15日

広州市赤十字病院



上海交通大学附属第六人民医院

